

ENSHOW® NEWSPLETTER 12

今月のテーマ

「環境問題と不動産－3－」

環境に優しい建物作り

地球環境に良い建物・グリーンビルディングこそ将来の不動産のあるべき姿なかもしれません

■持続可能・環境に優しい建物

前回のニュースレターでは建設業が環境負荷を低減させる可能性が大きいことに触れました。今回は皆さんも一度は耳にした事のあるロハスの考え方から、グリーンビルディングについて説明します。ロハスという言葉は LOHAS = Lifestyles of Health and Sustainability の頭文字をとった言葉で、健康・環境・持続可能なライフスタイルを意味します。

そんなライフスタイルの中でグリーンビルディングと言うものが定義されています。このグリーンビルディングとは持続可能な建物であり、環境に優しい建物の事です。

では、建物のどの部分が地球環境に影響しているのかを考えてみます。建設時に様々な加工を必要とする建物はエネルギー、特に化石燃料を多く使います。また、建設後も日々の活動の中でこれらのエネルギーを使います。各種設備機器、空調、家電製品などを使うために化石燃料を燃やせば硫黄酸化物、窒素酸化物、炭酸ガス

を多く排出します。また、建設材料そのものも工場での生産時に多くの環境負荷をかけています。それら環境負荷をできる限り下げ、建物環境の質の向上に基づく価値を向上させるために考えられたのがグリーンビルディングです。グリーンビルディングは環境負荷の低減だけでなく、この建物で過ごす全ての人々の生活の質を上げることにもつながっています。

■環境への負荷を徹底的に検証

グリーンビルディングの建設には、まず、原材料の調達方法やリサイクル材料であるか、製造段階でのエネルギーは最小であるかなどが検証されます。次の設計段階では環境基準に沿った設計である事はもちろんのこと、建設場所の設定に始まり、

どうなのか、そして将来取り壊しがしますいかまで考えます。建物の運用段階では、室内的空気、水、廃棄物の発生やリサイクルを監視し、環境に良い商品の購入を制度化し、増改築する場合も将来的な再利用が可能で、リサイクル材料を使用するデザインを考えます。そして取り壊し段階では、再利用やリサイクルが効率的に行えるように考えてゆくのです。

世界中で広まりつつあるこのグリーンビルディングの考えは、建物の環境に対する価値が数値で判り、地球への優しさを評価できるだけでなく、建物の中で生活をする居住者の健康が向上するという研究結果もでています。環境に優しい住まいは人間にも優しいという事でしょう

か。

建物を建設することは、将来の

地球や我々の生活を豊かにします。しかし、その一方でただ建てるのではなく、将来を見据え、じっくり研究を行つて取りかかるべき責任の大きな事業だと考えられ

ます。

【グリーンビルディングの定義】
自然エネルギーをできるだけ利用しながら、限られた天然資源の有効利用を図ります。また、代替エネルギーの開発と利用を試み、エネルギー消費量のトータル削減を目指し、無害で地域調達の建築材料を使います。その他、リサイクル材料の採用、リサイクルの実行と土地の適正な選定・使用を行い、快適性の向上、建設および運営の経済的効果を図る美的で質の高いデザインを目指します。

グリーンビルディングの一例



※詳しくは <http://www.lohasclub.org/1000/1600.html>

2008 DECEMBER

社会問題・環境問題
に目を向けよう!

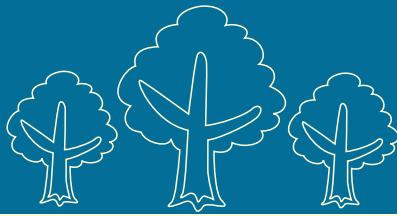
いよいよ師走となりました。語源の由来は様々ですが、師匠（僧や先生）があちらこちらに馳せる月と解釈があります。師匠でなくとも、「今年」という期限のうちにやっててしまいたいことは数多くあるもの。皆、走らなくては年を越せませんね。

2008年12月発行
発行：前田由紀夫
編集：(株)バブルス
株式会社円昭 HP
<http://www.enshow.com>



知識の泉

今号のテーマ
“木の可能性” 木材は循環型社会に
なくてはならないマテリアル



循環型社会で見直すべき資源・木材

木材は、私たちの生活になじみの深い材料で、比較的簡単に入手することができる。また、上手に計画的に育てていけば、持続可能な資源である。以下に木材の具体的に優れている点を紹介する。

<加工が容易>

機械や溶剤を使わなくても、切ったり削ったりすることが容易である。木材ほど現場での加工に適した材料はない。

<軽くて強い>

木材の比重は樹種によって異なるが、大体0.3~0.8くらい。鉄の7.8、コンクリートの2.2

に比べ、きわめて軽い材料である。一方、同一質量あたりの強さ(比強度)<図1>で見た場合、木材は鉄やコンクリートの数倍もの強さを持っている。軽くて強い、この性格が、建築の構造材として非常に有利である。

<熱を伝えにくい>

木材は熱伝導率が低いため、床板、手すり、把手などの内装材や、公園のベンチ・遊具などに適した材料である。

<湿度を調節する>

木材は、湿度が高ければ湿気を吸いこみ、空気が乾燥していれば湿気を放出して外界とのバランスを保とうとする性質がある。そのため、

内装材等に使用した場合は、室内の湿度をある程度調節してくれるので、高温多湿の日本に適した建築材料と言える。

<結露をおこさない>

温度変化が急激でなく、吸湿性があるため、木材には、結露の問題はおこらない。

<熱による強度低下は少ない>

鉄やアルミニウムは火災の時に軟化して強度が低くなるが、木材(太い材の場合)は高温でも周りが炭化すれば燃える速度が遅くなり、強度の低下はあまり大きくならない。

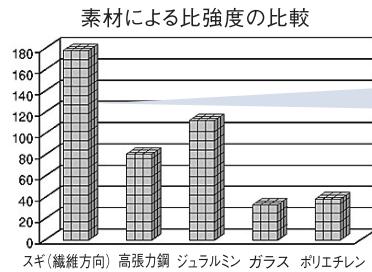
<健康で快適な空間を作り出しやすい>

木材には適当な堅さと弾性があるため、床材として用いた場合、歩き易く、疲れにくくなる。また、木材は光を柔らげるほか、木の色自体に有害な紫外線をほとんど含まない。適当な吸音効果もあるため、反響が長く尾をひかず、耳にやさしい材料とも言える。

さらに、管理をうまくすればインフルエンザなどの病気、怪我も少なくなる。

図1

比強度=強度/密度



木材は軽いわりには
強く、
建築の構造材に最適

コ・ラ・ム

二酸化炭素の排出量は増えている!

環境省の調べで、2007年度の温暖化ガスの国内排出量(二酸化炭素換算)は前年比で2.3%増加したことが分かった。減少傾向にあったのが増加になったのは2年ぶりである。原因としては、原子力発電所の稼働率が低迷、化石燃料を使う火力発電を多く使用したことにあるようだ。これでは、京都議定書の基準年である1990年度の水準を8.7%上回り、6%削減という目標が益々厳しくなってしまう。2007年は新潟県中越沖地震で、東京電力柏崎刈羽原子力発電所が停止。電力を補うためにCO₂の排出量の多い火力発電所の稼動を再開した。今年から京都議定書により温暖化ガスの削減が義務付けられているが、柏崎刈羽原発の稼動は2008年度も止まったままとなり、温暖化ガス削減の何らかの大きな対策を取らなければ今年度も基準年を上回る状況となりそうだ。

お勧めの一冊

逝きし世の面影

著者: 渡辺 京二

出版社: 平凡社 ¥1,995(税込)



日本が大きく変わった江戸末期から明治にかけて、日本を訪れた外国人がみたこの国の姿が描かれています。著者は当時の外国人の日記を読破。その中から外国人からみた日本人がどの様な民族であるのかを抽出します。「素朴で絵のように美しい国」(登山家ウェストン)「この小さな社会の、一見してわかる人づき合いのよさと幸せな様子」(英國商人クロウ)「古い日本は妖精の棲む小さくてかわいらしい不思議の国であった」(『日本事物誌』チェンバレン)。多くの外国人は、阿片で退廃し、貧困の時代だった中国と対比した目で日本を見ていると思われ、その素晴らしさが際立ちます。古き良き日本人を感じられる一冊です。



みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%

チーム・マイナス6% <http://www.team-6.jp/>

株式会社 円昭(enshow corporation)では地球温暖化防止のためCO₂排出量削減に取り組む「チーム・マイナス6%」に参加しています。京都議定書では、地球温暖化を防止するために、2012年までに1990年比で6%の温室効果ガス削減を約束しています。しかし2005年度における日本の温室効果ガスの排出量は、7.8%上回っており、温暖化対策をより強化する必要があります。微力ですが、将来の地球のためにできることから行動することを宣言します。

株式会社 円昭

〒466-0031

名古屋市昭和区紅梅町3-4-2

TEL: 052-841-2701

FAX: 052-841-4301

mail@enshow.com

<http://www.enshow.com>